

## 平成25年度 第3回平田地域協議会 会議録（要約）

1. 日 時／平成25年11月29日（金）午前9時30分～午後12時10分
2. 場 所／平田総合支所 302号室  
.
3. 出席者／（1）1号委員（団体推薦委員）  
後藤金美委員、阿曾智子委員、伊藤市太委員、佐藤薫委員、  
土田雄一委員、多田光吉委員、長谷部耕次委員、加藤勝子委員・・・計8名  
  
（2）2号委員（識見委員）  
阿部重敏委員、阿部敬子委員（副会長）、土田民子委員・・・・・・計3名  
  
（3）3号委員（公募委員）  
石黒由香委員、富樫文雄委員（会長）・・・・・・計2名  
  
（4）酒田市  
健康福祉部 高橋淳子子育て支援課長、  
平田総合支所 石川忠春支所長兼市民福祉課長、  
土田瑞穂地域振興課長、小松原茂建設産業課長、  
地域振興課 富樫好課長補佐、  
小松原毅地域振興主査兼係長（会議録作成者）・・・・・・計6名  
出席者合計19名
4. 欠席届／1号委員（団体推薦委員） 庄司美智子委員、土田伸委員・・・・・・計2名
5. 傍聴者／1名  
.
6. 次 第／（1）開会  
  
（2）会長あいさつ  
  
（3）支所長あいさつ  
  
（4）会議録署名委員の選任

(5) 報告

- ① 市立保育園統合時期の平成29年度への繰り延べについて
- ② 平成26年度 地域づくり予算の要求状況について

(6) 協議

地域課題について

(7) その他

(8) 閉会

7. 会議録／(1) 開会

▶土田地域振興課長

(2) 会長あいさつ

▶富樫会長

おはようございます。

本日はお足元の悪い中、地域協議会にご出席いただきましてありがとうございます。皆様からは、委員として住民の負託に応え、いろいろな地域課題に対して鋭意頑張ってくださいと、本当にありがたく、感謝を申し上げたい。

先日は三地域協議会の委員合同研修会として、飛鳥中学校を視察していただいたが、昨日も教育委員会と、中学校の統合における現状と課題について話をしたところである。今3年生は、受験という大事な時期を迎えている。工事の関係で月によって教室を移動しなければならない中、一生懸命やっている生徒たちのため、未来を担う子どもたちのため、私たちに与えられた課題は、より良い教育環境を作ることだと思っている。地域全体で支えていっていただきたい。

いつも申し上げていることだが、組織代表の方は各組織からのご意見を、識見、公募委員の方は広く市民と触れ合う中からのご意見をいただきたい。

(3) 支所長あいさつ

▶石川支所長

おはようございます。

今朝は雪が降り、いよいよ厳しい冬に入ると感じている。除雪について少しお話しさせていただくと、今年も万全な体制で除雪に望むべく、本日、除雪隊の結団式が行われる。住民アンケート調査においても、除雪体制や屋根の雪下ろしなど、雪に関するご意見やご要望が多かった。そういったこともあり、民生委員や自治会長さん方の会議において、除雪の体制、屋根の雪下ろしや道路から玄関までの除雪に対する支援、家の入口前にある雪の塊の撤去といった制度の周知とご協力をお願いしながら、これらの制度を有効に活用していただいて、皆様が困っている状況をいくらかでも解消していきたい。

中学校の統合については、富樫会長が統合準備委員会の会長でもあるわけだが、石黒光二さんをお願いしていた校章が決まり、次の学区改編だよりで皆様にお知らせする。校歌については、12月の半ばに決まるということであった。

砂越駅での切符の販売について、人が常駐しての発券業務は、来年度から廃止する方向で検討している。それに伴い、通学する高校生など青少年の見守りやトイレの清掃について、地元の自治会にお願いできないかを検討している状況である。

旧高畑中学校の校舎については、老朽化が進み危険な状況であるため、解体の方向で調整している。その後については、体育協会からのご要望もあり、広場的な整備も考えながら進めていきたいという状況である。

本日は、ご意見くださいますよう、よろしく願いいたします。

#### (4) 会議録署名委員の選任

##### ▶富樫会長

会議録署名委員として、伊藤市太委員を選任いたします。

#### (5) 報告

##### ① 市立保育園統合時期の平成29年度への繰り延べについて

##### ▶高橋子育て支援課長（資料に沿って説明）

##### ▶伊藤委員

前回8月8日の地域協議会でも説明を受けたが、資料にある入園予定園児の数が、前回と今回とで違っている。何か月しないうちに変わるような数字で説明されても、疑問に思う。

##### ▶高橋子育て支援課長

精度を欠いていたということになると思うが、推計ということ基礎となるデータが微妙に違ってくることもあり、今回の方がより見直しを

かけ、現実的な数値になっているとお考えいただけるとありがたい。

▶伊藤委員

入園率など基礎的な係数は同じであるのに、これから生まれてくる子どもの人数ではなく、実際に生まれている子どもの人数について、こうした信頼性の低い資料を出されても困る。平成27年から29年に統合を延ばすための数字を上げたにとらえてしまうのは、考えすぎか。

説明の趣旨については、理解できないというものではない。統合を2年延ばすことによって経費を抑えられるような内容であり、そこに反対はないのだが、この数字の信頼性が低いために、説明の中身まで本当なのかと疑問を持たざるを得ない。

▶高橋子育て支援課長

この数字については、一度持ち帰らせていただき、後日改めて回答させていただくことをご了解いただけるとありがたいのだが。

▶伊藤委員

了解した。

▶富樫会長

精査のうえ、後日再度ご報告いただきたい。

▶土田雄一委員

私の孫も市内で生まれたのだが、保育園はこちらに申し込んでおり、そうした例もこの数字に影響しているのではないか。

▶石黒委員

入園率についての確認だが、平田地域内の子どもを100とした数字なのか、市内など他から入園している子どもも含まれているのか。

▶高橋子育て支援課長

平成25年5月1日現在でそれぞれの保育園へ入園している園児数を、平田地域内の年齢層の人数で割って入園率を出し、それを基に平成27年度以降の人数を推計している。5月1日現在の入園児童数からは、市内など他から入園している子どもの数は引いていない。

▶長谷部委員

入園率という基礎数値の捉え方だが、これまでは平田エリアの中で何年度に何人が入園するという予測がついた。今は合併したために、たとえば八幡の方に入園させていたが、親の関係、婚礼期の大人の移動の関係などで変わっていくという要素が出てきた。そういったことも加味しながら、入園率も徐々に上がっていくという読み方もできるのだと思う。

今までの行政からの説明は、基礎数値ありきで出してきた。これからの予測については、大人の生活圏などの動きや、それに伴う子ども

が出生した時の環境によって変わってくるという要素もあるのだと思う。こういった資料を発表するときには、これらを加味した答弁ができるよう準備してきてもらわないと、行きつ戻りつの議論になってしまうので、そこはしっかりと押さえてから来てもらいたい。

もう一つは、合併特例債が活用できるということであるが、ここにおいても、今政府では合併特例債を延長して地方交付税の部分を見直すということも出てきており、そういうものも加味した資料にしていかないと、ここで何を基本に話をすればいいのか分からず堂々巡りの議論になってしまう。もう少し精査をした資料を出していただきたい。

▶高橋子育て支援課長

合併特例債も含め、国から示されてくる内容が短期間で変わるなど、見通しを立てて進めていくことが大変な中、何とか市民の皆様にとって良い方向につながるようにと、仕事をさせていただいている。ただ今のご意見も真摯に受け止めさせていただき、今後ご説明させていただく際に生かしていきたい。

▶多田委員

これからの地域のことを考えていく場合、入園率を上げるためには結婚して子どもを産んでもらうことも一つの手だし、この地域に来てもらうという手もある。制度もあり簡単ではないと思うが、平田の保育園に入るとこういう利点があるという、人を寄せるための予算を付けるなど、どうしていくか大きく考えていけば、この問題はまた違った角度で検討できる。

残念だが、いつまでも率が変わらないように見ている。努力はしないのかと私は考える。どういう努力をして率はこうなったというのではなく、意味のない率を出している。私はその前にやるべきことがあると思う。お金をかけても、戻ってくるようになれば怖いことはない。平田をモデル地域にして、今私が言ったようなことについて、これから見直しができるのではないかと要望させていただく。

▶高橋子育て支援課長

平成27年度より、「子ども子育て支援新制度」が動くことになっている。この新しい支援制度について、酒田市でも地域の現状を把握した上で展開していこうと、平田地域も含め9月から10月にかけてニーズ調査をさせていただいた。

このニーズ調査は、皆様から子育て支援に対する様々なご希望やご意見をいただけるような内容となっており、そこから皆様の子育て支援についてのご意向を把握できるのではないかと考えている。調査結果につ

いても公表しながら、今後の方向性を考えていく予定となっている。

ご指摘いただいた数字的などころについては、先ほども申し上げたとおり、いただいたご意見を真摯に受け止め再度検討し、皆様からご理解いただけるようお示しさせていただきたい。

② 平成26年度 地域づくり予算の要求状況について

▶土田地域振興課長、小松原建設産業課長（資料に沿って説明）

▶長谷部委員

地域づくり予算の9事業のうち、増額になっているのは平田っ子交流会の事業だけで、あとは減額となっている。平成26年度は、2パーセントシーリングという網を掛けられたということであった。見てみると、2パーセントずつきれいに揃えてあるなど。私はこういうのではなく、中にはもっと減額をする、あるいはもっと増額をするといった、事業によって凹凸（おうとつ）があってもいいのではないかと思う。

地域振興や住民生活にとって、どの項目が必要な部分であるのか、ここが見えてこない。シーリングがあったから、ただ2パーセント削ればいいというものではないと私は思う。ここを増額すべき、ここは減額すべきといった時に、各委員は組織代表や地域代表ということでここに出席しており、それぞれの立場で何らかの関連もあるわけなので反対意見も出てくると思う。自分の置かれた立場から予算を見たとき、ここは増額をお願いしたいと思うのが本音だと思う。一つ言うと必ず反対が出るとは思いますが、たとえば花いっぱい推進事業というのは、あれば見た目はいいのだが、皆様の生活の中でどれだけの財源効果が上がるのかといったら、ここは我慢してもらってもいい事業ではないかと思う。

先ほどの説明の中では、生涯学習センターの備品を増やしたいということであったが、里山さかた交流人口拡大事業は減額となっている。事業の中で何を落とし、何を増やしていくのかが見えてこない。もう一つ、ふるさと会交流促進事業については、来年、首都圏ふるさと平田会は設立30周年という大事業を迎えるのに、これですら減額となっている。平田会では、相当の予算をかけてやろうとしているわけで、それがこの額ではどうなのかなど。

事業ごと、ここは市民から今年度は我慢をしてもらう、しかしこのところは増額をする、去年は減額したが今年は復活させる、こういった行動があってもいいのが予算である。そういうものが見えてこない。どう捉えているのかお聞きしたい。

▶土田地域振興課長

今回お示しした額は、ちょうど2パーセント減となっているものもあ

るが、そうっていないものもある。一律に金額だけ2パーセント削ったというのではなく、すべて一から積み上げた結果、こういった予算要求になったということをご理解いただきたい。

たとえば地域振興事業だが、内容を見直し、かなり減額となっている。この事業の内容については、新たに取り組むもの、あるいは廃止するものもあり、結果として平成25年度と比べ少ない金額となっている。また平田会については、会の方で設立30周年に向けた積立を行っており、その予算を投入して例年にないような形で記念事業を行うと聞いている。市としては、総会に参加する経費であり、例年と変わった形での内容にはしていない。

里山さかた交流人口拡大事業について、要求している内容は盛り沢山だが金額は減っているということであった。この事業、平成25年度については以前皆様にもご紹介した里山平田ガイドマップの増刷を行うが、平成26年度についてはマップの印刷はせず、自然教室のための備品を充実させたいという内容となっている。

▶小松原建設産業課長

花いっぱい推進事業について、予算を削ってもいいのではとのことであった。長谷部委員がおっしゃるとおり、平田町時代からやっている事業であり、所期の目的が達成されつつあることや、平成25年度は参加団体が少し減ったというところから、2パーセントより多くシーリングをかけた数値で向かうことも検討した。

しかし、他から平田に来た方などから、道路の交通島などの花がとてもきれいだとの評価をいただいていることや、この事業を地区民総出で行っている地区ではコミュニケーションが図られるという話もあり、環境美化に加え地域が一つにまとまるという地域づくりの面から、あらためて2パーセントぎりぎりまで上げて要求したという経緯がある。

田園調布学園のファームステイ、庄内ひらた目ん玉まつり、田沢川ダムまつりについては、ぎりぎりの予算は確保したいという意志の表れの2パーセント減だをご理解いただきたい。何とか創意工夫により、賑わいのある、あらためて地域の良さに気付いていただけるようなことを計画していきたい。委員の皆様からもアイデアをいただきたい。

▶多田委員

予算のどの部分に入るか分からないが、農業の問題だが、5年後に転作、減反が無くなるということが話題となっている。平田は農業の地域で、農業に関わる世帯も多い。数字的なものは今後示されてくるのだと思うが、その内容を議論しないと、どうなっていくのかという心配も多

いかと思う。早めに説明会などを開き、心配を払拭してもらいたい。

その方法としては、政治家でも経営者でも、「分かる人」を呼んだ講演会でもいいし、地域としてどうしていくかということを探索しておかないと、もう競争に勝てない時代となっている。平田で、酒田でできることはいっぱいある。つや姫をブランド化としていくのも一つだろうし、温泉もあり観光で人を呼びこむことなどについて、消費者も交え、一緒に考える場を立ち上げてもらいたい。予算は1万円でもいい。やるということが大事。

▶小松原建設産業課長

多田委員のご意見、もったもだと思う。ただ今のご意見は本庁にも投げかけていきたいし、地域づくり予算でという話もあったが、そこは所管課である農政課の予算になると思うが、検討させていただきたい。平田管内を見てこれからの農業をどうしていくのかというのは重要であるし、全市的にも必要だと思う。お話をあつたブランド化については、「酒田米」ということで、農政課でPR用ポスターとのぼりを作ってアピールしていくとのことであった。建設産業課でも、農政課、農林水産課と連携しながらやっていきたい。

▶石黒委員

去年も発言したと思うが、平田っ子交流会については、ここ数年行くとなっても人が集まらない、迎える際の受け入れ家庭はもっと集まらないということで、事業としてはどうなのか。田園調布学園の受け入れについても、もうすでに平田地域以外に頼らないとできなくなっている状況である。

平田の人たちが、どれだけ喜んで事業に参加しているかというところを考えると、他にもっと求められている事業があるのではないかと。守るべき事業もあると思うが、本当に求められていることにもっと予算を使っていかないと、平田の人たちが行政と一緒にやっという気持ちにもならない。大きいことをしようとすれば、大きい物を捨てなければならない。そのぐらいの勇気を持って、新しく、ニーズに合ったものに変えて行かないとだめなのではないかと私は思う。地域からの意見も聞いて、少しずつでも変えながら、ニーズに合った事業をやっていたきたい。

▶長谷部委員

庄内ひらた目ん玉まつり、田沢川ダムまつりへの予算の振り分けを教えてください。

▶小松原建設産業課長

田沢川ダムまつりについては、地元の皆様による実行委員会に対し、83万5千円を負担している。原資としてはこれ限りである。

庄内平田目ん玉まつりについては、実行委員会に対し74万6千円を負担している。庄内平田目ん玉まつりについては、この金額だけで運営されているということではなく、花火の部分はふれあい商工会さんの方で協賛金を集めていただいております、かなりの額で打ち上げている。JA庄内みどりさんからも、賑わいを出すためにそれなりのお金を出していただいている。

入込者数は、田沢川ダムまつりの800人に対し、庄内ひらた目ん玉まつりは4千700人と6倍ぐらいの人数である。負担金の考え方については、庄内ひらた目ん玉まつりは出し合う部分があるということ、またイベントを支える人数が多いということでご理解をいただきたい。

▶長谷部委員

花火に対しては、行政からのお金は一切入っておらず、ふれあい商工会で募る寄付行為だけでやっている。一発増やしたい、5分でも長くやりたいということになると、寄付を増やさないとできない。あの夜の部分まで人が残っているということについては、最後の花火が相当影響しているとのことであった。実行委員会に74万6千円が入ってくるが、この配分の仕方では花火の部分を充実させられないかということについても、我々は課題としてとらえている。旧平田町民からは花火への寄付に対し、さらにご協力をいただきたい。本日は組織代表の方々もおられるが、ここであらためてお願いいたします。

▶伊藤委員

生涯スポーツ振興事業に関連してだが、コミュニティ振興会に対し、市の体育事業への負担金を毎年求められる。市では予算を取っていないのか。

▶地域振興課長

生涯スポーツ振興事業は、平田地域内で行われる各種のスポーツ大会や教室などの事業を行うものである。コミュニティ振興会にお願いしているのは、市の体育事業に参加するための負担金である。

▶石川支所長

平田地域内の五つのコミュニティ振興会で、平田体育振興会を組織している。体育振興会では、平田地域として市民体育祭の参加者をまとめたり、市巡回駅伝の選手を集めて出場したりしている。各コミュニティ振興会からの負担金は、市民体育祭に参加された方の昼食代であるとか、陸上競技場に行くためのバスの借り上げなどに使われている。体育振興

会には、この負担金のほか市からの補助金も入って運営されている。

▶土田雄一委員

花いっぱい推進事業について、去年の金額はどのくらいか教えていただきたい。花の種類がサルビアとベゴニアで毎年同じなのだが、変えるような考えはあるか。美化サポーター制度というものがあるが、これを活用すれば予算も少し削っていいのではないか。

▶阿部重敏委員

花いっぱい推進事業について、種でもらっているが苦勞してやっている。予算的にはもっと必要になるかと思うが、種ではなく苗でいただけないか。

▶後藤委員

花いっぱい推進事業について、元田沢地区では花の会としてやっている。大変喜ばれており、継続していただきたい。

▶佐藤委員

平成23年に地域ビジョンが作られているが、予算要求もこのビジョンに基づいて行われているのだろうし、地域協議会にとって非常に重いものだと受け止めている。ビジョンは5つあり、実施すべき施策として22の項目が示されている。平成30年3月までのビジョンであるが、22ある施策について、こういう事業でこの年度にやっていくというロードマップ的なもの示していただきたい。

当然、地域協議会としても非常に重い責任があるかと思う。委員としてチェックしながらやっていく必要があるだろうし、これを作った時には全戸に配布しており、年に一度は進捗状況の報告は必要だと思っている。

▶加藤委員

除雪について、よく山間部の話は出るのだが、砂越緑町は宅地の面積が狭いため、道路に大きな雪を置いていかれると、どの家でも困ってしまう。そのあたりを作業する方をお願いしていただきたい。

▶阿部敬子副会長

里山さかた交流人口拡大事業について、私も山元のわいわい工房として、小学校の自然教室で調理のお手伝いなどをさせていただいている。小学生と一緒に様々なことをしていると、子どもたちの目の輝きはすばらしい。山登りとか屋外炊飯とかいろいろな活動があったが、それに農業体験みたいなものも加え、小学校でできる農業体験、中学校でできる農業体験などもセットできたら、交流人口の拡大にもつながるのではないかと考えており、そのあたりにも力を入れていただきたい。

今年の自然教室では児童が60名という学校もあり、食器などが足りないということもあったので、備品の整備は進めていただきたい。生涯学習センターの使い方については、地域の発展のためにも今後もっと重要となってくると思うので、予算を多く付けていただきたい。

▶富樫会長

私からは子どもたちの見守り活動について、南平田小学校の通学路の安全を確保するため、月曜日から金曜日まで、毎日のように7、8人の方々がボランティアで歩いている。こうした活動について予算措置がなされておらず、会合でのお茶やお菓代も自前である。田沢小学校も、地区の自治会が主導的に毎日、また冬になれば除雪もほとんど無償で行っている。

飛鳥中学校の工事について、教室棟から音楽室までの35メートル、雨の日子どもたちは、傘をさして行っている。教育委員会では、12月になって雪が降るまでに対応するということであった。3カ月かかってはまだやっていない。

東部中学校となった後の事業について、現在松山中学校で行っているアメリカとの交流や、飛鳥中学校の子どもたちによる商品開発の取り組みである飛鳥ブランドなどは、統合後に続けていくか分からないということであった。こういうことについても、メリハリのつくような形でやっていかなければならないのではないかと。

▶土田地域振興課長

石黒委員から、平田っ子交流会のあり方について、またこれまでの事業にこだわらず、積極的に地域の求める事業について取り組んでいくべきとのお話があった。今年度、海津市さんをお迎えした際、今後の事業の持ち方、あり方について話をしている。これまでは、3泊の内2泊はホームステイであったが、そのあたりから見直しを図るべきでないかということで、意見が一致したところである。平成26年度、こちらから海津市さんを訪問する際に、その辺を詰めていって、できるだけ多くの方から参加していただけるような内容にしていきたいと考えている。

新たな取り組みということでは、里山さかた交流人口拡大事業は昨年度から平田だけで取り組んでいる事業である。市内の小学校に対し、平田で自然教室を実施していただけるようお願いをしているところであるが、そのためには地域の皆様からいろいろなご協力をいただかなければできないことであり、皆様との連携をさらに深めて取り組んでいきたい。

佐藤委員からは、地域ビジョンのロードマップが必要ではないかというご意見をいただいたが、おっしゃるとおりである。平田地域協議会で

策定した平田地域ビジョンであり、当然、委員の皆様からその状況を常に把握していただき、ご指導、ご提言いただくということになるかと思う。前回の地域協議会の資料でも簡単にはご説明させていただいたが、来年度の予算が決定したら、あらためてご説明させていただきたい。

阿部副会長から、自然教室の中に農業体験も加えたらどうかというご提案があった。自然教室の実施主体である、それぞれの小学校からの意向も伺いながら進めていければと思っている。生涯学習センターの備品の状況についてはお話のあったとおりで、大人数の団体が宿泊する際には、不満な部分が多々あるというのが現状である。施設を管理している社会教育課とも調整しながら、必要なものをそろえていきたい。

▶小松原建設産業課長

花いっぱい推進事業について、平成26年度は目いっぱいの予算要求ということで、62万7千円を要求している。平成25年度の予算額は64万円である。土田雄一委員からお話があった、都市計画課の美化サポーター事業とは競合するようなところもあって、二つの事業の統一についても一考を要すると思う。

しかし、花いっぱい推進事業は地域にとって大切な事業であると思っている。ささやかな予算なので、これを最大限活用するため、地域の皆様には種の方を増やすことをお願いしてきた。阿部重敏委員から、種から育てるのは大変だというお話があったが、今回は内部でも考え、平成26年度は苗の方も充実させたい。土田雄一委員からお話のあった花の種類について、今年はサルビア、ベゴニア、日日草、マリーゴールドの4種類であったが、単価のこともあり、値段も見ながら、何とか賑やかな、きれいな形で植栽ができるよう考えていきたい。

石黒委員からは、田園調布学園のファームステイについてのお話があった。実行委員会を開くと、「このまま続けていっていいのか」という話も確かにあるが、実行委員の皆様はこの事業の大変さを分かりながら、良さも十分理解していただいております、「大変ではあるがもう少し続けていきたい」と話をしてきている。受け入れ世帯は全市に広がりつつあることから、平田を発祥の地として酒田市全体の事業として捉え、農林水産部では田園調布学園との交流を通じて、物販の方まで踏み込んでいきたいと考えているようであった。

私たちとしては、子どもたちを3泊4日安全に体験させ、良い思い出を持って帰ってもらうということがまずメインである。来てくれた子どもたちは、酒田、庄内というところにこだわりを持ってきてくれていると、手紙からも感じている。それが間接的には、物販にもつながっているの

かなとも思っている。確かに、どこかの段階で根本的な見直しが必要な  
のかもしれないが、もう少し続けさせていただければと思っている。

▶多田委員

中学校の問題を一つ取っても、今すぐやらなければならないことを予  
算化できないのはおかしいのではと疑問に思った。自分の子どもがいれ  
ば、危険であるし体の不調にもつながることであり、親であれば言うだ  
ろう。前から要望しているのに、雪が降らなければダメだというのはお  
かしい。子どものことに関しては、やれることはやってほしい。

石黒委員の意見については私もそう思うが、事業を削るとなればいろ  
いろな思惑が絡むわけなので難しい。その辺をどう切磋するかが問題で  
あり、関係されている方々がどう思っているかは分からないが、今まで  
やってきたことを削るということを、人は簡単に辞めない。良い意見だ  
と思うが進んでいかない。その辺を市としてどう考えるかだが、いくら  
でもこの地域協議会で力になればいいのだが。

▶石川支所長

富樫会長から、子どもの見守りを一生懸命やっているが、それに対し  
てなんら支援がないという話があった。コミュニティ振興会として見守  
りを行っているところもあり、コミュニティ振興会の事業に盛り込む場  
合は、市から2分の1の助成がある。見守り隊が大変だということであ  
れば、コミュニティ振興会の事業に位置付けていただくことも可能では  
ないか。

飛鳥中学校の音楽室の関係については、教育委員会に対し支所からも  
働きかけていく。

松山で行っているアメリカへの研修、平田で取り組んでいる飛鳥ブラ  
ンド、それぞれ独自の事業をどう調整し、東部中学校になった後にやっ  
ていった方がいいのかということについて、中学校と地域振興課とで相  
談をしているところである。アメリカへの研修は松山の地域づくり予算  
でやってきており、予算については松山で要求している。飛鳥ブランド  
についてはふれあい商工会とやっているが、一区切りはしたいというこ  
とであった。ただ、中学校として何らかの形で続けたいとすれば、ふれ  
あい商工会としても支援していきたいということであった。

加藤委員から、砂越緑町の方でも家の前の除雪が大変だというお話が  
あった。今までの感覚だと、雪の多い山間の方が容易でないというイ  
メージであった。ところが要望や苦情は、平野部も含め全地域的に多くな  
っている。

家の前の雪の塊をのけるのも、高齢で支援が必要な方という条件など

もあり、あくまで入口の前の塊だけをのけるだけで、すべてきれいに除雪する仕組みではない。どうしても手を借りないと雪の塊をのけられない方について、民生委員の方々から申請を出してもらい、登録された方の所は雪の塊を取り除くという制度であり、すべてが対象になるのではないといったあたりも丁寧に説明させていただき、制度を知らなかったという方からはぜひ使っていただきたい。

玄関から道路までの除雪も同じで、やはり自分ではできない方々への支援ということで、丁寧に説明してきてはいるのだが、これからも説明していきたい。除雪機械が来ればすべてがきれいになるということにはならないわけで、冬の間はお互い助け合って行くしかないのではないかと考えている。

▶富樫会長

予算については、いつごろまで皆様の要望を取り上げられるのか。

▶土田地域振興課長

大きな事業についての要望は、予算要求が締め切られている状況であり、平成26年度から対応するのは難しい。それほど大きな内容でなければ、ご相談に応じられるものもあるかと思うが、査定後の内示が1月中旬にあり、そこから復活するものもあるが、1月下旬にはおおよその予算が固まる。

▶富樫会長

すでに締め切られたということであるが、この会は何なのか。地域づくり予算をここで審議しなさいと言われていた。締め切られたとは私も知らなかった。地域協議会とは何なのか、説明してもらいたい。

▶地域振興課長

8月に行われた第2回目の地域協議会において、予算も含めた地域づくりについて、委員の皆様からご意見をいただいている。それらがすべて反映されているかという点、そうはなっていないが、こちらだけで作った内容ではない。今後、若干の調整的なものであれば、可能な範囲で対応できるかと思っている。

▶石川支所長

地域づくり予算で対応していくための地域課題の把握から、予算要求にいたるまでのつながりの部分で、説明不足があったと認識している。予算要求は10月に財政課へ上げるのだが、そこにいたるまで、4月の第1回目の地域協議会や、8月の第2回目でもいただいたご意見などを受け、予算を要求していく流れとなる。こうした流れの中で、新たな課題への対応も入れながら、今回の地域づくり予算を要求したところである。

本日いただいたご意見については、予算の組み立ての中で、できるものは変更できるし、本庁の各課と連携することで可能となるものもあるかと思う。ただ、平成26年度から新たな事業に取り組むということになれば、そういうご意見をいただく場面が前回の第2回目までであったということである。

地域づくり予算の項目にはないような、今後の農業について考えていくための講演会などは、できるよう農政課に働きかけていく。また、花火に少し予算を回せないのかとかいうことなどは、実行委員会の中で検討することも可能であると思う。この地域づくり予算で、すべてできるというものではないことはご理解いただきたい。

## (6) 協議

### 地域課題について

#### ▶阿曾委員

東陽コミュニティ振興会では、中野公民館、北俣公民館を管理しているのだが、この二つの公民館の存続をどうしていくかということについての返事が、平成25年度から平成28年度まで延長された。その後どのような状況になっているかが知りたい。

北俣公民館については、いらないという声が上がっており、もし平成26年度からいらなくなった場合は、酒田市としてどう対処するのか。これまで施設管理費として来ていた分を削除し、電気や水道は止めてしまうのか。現在は草刈りとか清掃などの管理を行っているわけだが、そちらの方の管理はどうなるのか。鍵を掛けて一切使えないようにするのか。中野俣公民館については、各自治会の意見を待っているところである。そのあたりをお聞きしたい。

#### ▶阿部重敏委員

必要がないということではなく、地元では管理ができないということである。防災面で避難所とかを考えたとき、あの場所があれば必要なのだが、管理していけないので、それならば取り壊しても差し支えないという状況である。

#### ▶土田地域振興課長

旧分館については、3年間の中で検討していくということであり、状況が大きく変わったということはないと思うが、だいぶ時間も経過しており、次回の地域協議会において現時点での状況を報告させていただきたい。

## (7) その他

### ▶長谷部委員

飛鳥中学校の関係で、私から皆様に提案し、ご理解をいただきたいことがある。飛鳥中学校という名前は統合した時点で無くなるが、これまでの学校の歴史の中で、陸上競技部というのは相当な実績を残している。この陸上競技部に対し、個人的な時間と能力を割いて指導協力をしていられる方がおられる。その方は渋谷元二さんで、38年間やっていたいている。生徒も結果を出し、飛鳥中学校という名前が度々新聞にも載っている。

飛鳥中学校という名前では最後になるわけで、私はここで、渋谷さんに対して敬意を表する行動にご理解をいただきたい。教育委員会、PTA、学校の考えもあるであろうし、行政の考えもあるだろう。私たちは地域住民の代表であるが、住民の理解があつてこそはじめて成り立つのだと思う。ここで賛成、反対という意見は求めないが、飛鳥中学校時代の時に、渋谷さんへ敬意を表す行動に対し、皆様からもご理解をいただくをお願いしたい。

### ▶富樫会長

皆様、長谷部委員からのご提案にご異議ございませんか。

### ▶全員

異議なし。

## (8) 閉会

### ▶阿部敬子副会長

本日は貴重なご意見ありがとうございました。

これで会議を閉じさせていただきます。皆様ご苦勞様でした。